

法政大学学術機関リポジトリ  
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

## 『琉球館訳語』 解説文（一）

著者	丁 鋒
出版者	法政大学沖縄文化研究所
雑誌名	琉球の方言
巻	20
ページ	86-105
発行年	1996-02-26
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/11928">http://hdl.handle.net/10114/11928</a>

# 『琉球館訳語』 解説文 (一)

丁 鋒

## 凡例

### 一、本文の主旨について

『琉球館訳語』に実録された十五世紀頃琉球王府所在地首里の言葉の漢字音記を逐一に解説する。首里語資料を引用して、音記漢字の明代発音と合わせ、琉球音・中国語音の対音を再現する。

### 二、『琉球館訳語』の版本について

ロンドン大学本は原本とし、阿波国文庫本（阿波国本と略称）・稲葉君山本（稲葉本と略称）・台湾本は校本とし、三種の校本は諸本とも通称する。校本の正しい用字によって原本の錯訛を訂正する場合がある。

### 三、音記の引用資料について

琉球各方言の差が大きいから、首里語以外の琉球方言資料は引用しない。同じ首里語資料でもできるかぎり時代早く、音記されたものを使う。主要な首里語論著は『海東諸国紀所載の古琉球語の研究—語音翻訳釈義』（『伊波普猷全集』第四巻P47—122）、『校註琉球戯曲集』（『伊波普猷全集』第三巻）、『標音校註琉歌全集總索引』（清水彰 1984年）、『沖縄語辞典』（国立国語研究所、1967年）、『図説沖縄語辞典』（中本正智 1981年）、『浦添・小湾方言辞典』（法政大学沖縄文化研究所小湾字誌調査委員会 1995年）、『琉球方言辞典』（中松竹雄 1987年）などである。貴重な歴史文献『おもろさうし』に『おもろさうし辞典・総索引』（仲原善忠・外間守善 1967年）と『おもろ鑑賞—琉球古謡の世界（連載第1回—第100回）』（中本正智 比嘉実 クリス・ドレイク）両書を参考する。日本本土語の方は主に『邦訳日葡辞書』（土井忠生など編訳、1980年）を引用する。必要な所に引用書のページ番号も取入れる。

### 四、明代官話音について

『琉球館訳語』における音註漢字の発音は明代官話音で、当時の北京官話に近い。解説文に解説音と対照する語音は北京官話音を代表する徐孝の韻図『重訂司馬溫公等韻図経』（1606）と韻書『合併字学集韻』（1606）の音である。

### 五、音記符号について

国際音聲符号で統一に音記する。

項目の後に←→の前後の〔 〕内は明代（北京）官話音と解説音である。

各引用書に使われた音記符号は互いに異なるから、引用文の後の（ ）内に＝で国際音聲符号と対照して統一させる。

琉球館訳語、に記録された琉球（首里）語は音韻変化の原因で現代首里語と違う所が多い。その変化を（ ）内の←で表明する。

●明代琉中对音資料の中の主要な対音法則は以下である。(一)、子音：m（琉）←→m（中）  
 n←→n r←→l Φ←→f h←→h ts、dz←→ts、ts' s、z←→s tʃ、dʒ←→tʃ、tʃ、tʃ' f-ʃ、ʃ ʒ←→ʒ、ʒ p、b-p、p' k、g、ʔ←→k、k' (二)、母音：a←→a、ε i、y、j  
 ←→i u、w、v←→u e←→e、ε、ie o←→o ua←→ua 短音、長音←→長短音区別なし  
 (三)、子音音尾：-m、-n、-ŋ←→-m、-n、-ŋ（混同）、-ʔ（促音）←→無い（入聲）。

詳細なことについては拙著『琉漠対音与明代官話音研究』（中国社会科学出版社 1995年2月）にご参考下さい。

## 一 天 文 門

### 1. 天 甸尼 [tien ni] ←→ [ten ni]

おもろさうし「天 てに」。おもろ鑑賞（第4回）はこう解釈する。

「天」は字音語 t'ien を移入したもので、平仮名で「てに」と表記されている。現代久米島方言でティンニというところをみると、どうやら「天」はテンでなく、テンニの形で移入したらしいのである。一五〇一年に建立された「たまおどん」（玉御殿、玉陵）の碑文の末尾に「このかきつけそむくんあらば、てんにあをぎ、ちにふしてたたるべし」とある。「てんにあをぎ」は「てんに（天）を仰ぎ」と解されるから、当時、天をテンニとっていたことが確かである。とすれば、ここでの「天に」は助詞「に」がついたのではなく、テンニ（天）を表記したと解される。

「テンニ」は ten ni と読むべきである。

### 2. 日 非禄 [fuei ru] ←→ [Φi ru]

日、白日、昼。おもろさうし「昼 ひる」、日葡辞書・琉歌全集（355）・琉球戯曲集（95）「昼 firu」（f=Φ）。沖縄語辞典（774）「昼 hwiru」（hw=Φw）。

### 3. 月 都及 [tu ki] ←→ [tu ki]

おもろさうし「月 つき」。語音翻訳（84）「月 tsiùki」。日葡辞書「月 tçuqi」（tç=ts、q=k）。沖縄語辞典（732）「月 çici」（çi=tsi←tsu、ci=tʃi←ki）。対音字「都」から見ると、ts の古音 t は未だ保留している。

### 4. 風 嗑集 [k'a tsi] ←→ [ka dʒi]

おもろさうし「風 かぜ」。日葡辞書「風 (カゼ) caje」(c=k, j=dʒ)。語音翻訳 (79)「風 k'adji」(dji=dʒi←dʒe)。琉歌全集 (321)・琉球戯曲集 (31)・沖縄語辞典 (656)「風 kazi」(z=dʒ)。琉球方言辞典 (388)「風 kadʒi」。

5. 雲 姑木 [ku mu] ↔ [ku mu]

おもろさうし「雲 くも」。琉歌全集 (327)・琉球戯曲集 (56)・沖縄語辞典 (674)・琉球方言辞典 (387)「雲 kumu」(mu←mo)。

6. 雷 刊每那立 [kan mui na li] ↔ [kam mi na ri]

日葡辞書「雷 caminari」(c=k)。沖縄語辞典 (660)「雷 kaNnai」(N←mi i←ri)。第二音節子音 m-の影響で第一音節の音尾に添音-mが有る。

7. 雨 嗑乜 [ka mie] ↔ [ʔa me]

おもろさうし「雨 あめ」。日葡辞書「雨 ame」。沖縄語辞典 (622)「雨 ʔa mi」(ʔa←a, mi←me)。対音字「乜」の主元音は「ε」であるのによって第二音節の母音は「e」と読むべきである。

8. 雪 由乞 [iəu k'i] ↔ [iu ki]

語音翻訳 (78)「雪 yuki」。沖縄語辞典 (805)「雪 'juci」(c=tʃ←k)。

9. 星 波失 [puo ɕl] ↔ [po ʃi]

おもろさうし「星 ほし」。沖縄語辞典 (783)「星 husi」(hu=Φu←Φo, s=ʃ)。対音字「波」から見ると、Φの古音 p は未だ保留している。

10. 霧 乞立 [k'i li] ↔ [ki ri]

日葡辞書「霧 (きり) qiri」(q=k)。沖縄語辞典 (670)「霧 ciri」(c=tʃ←k)。

11. 雹 科立 [k'uo li] ↔ [ko: ri]

雹、冰 (ひょう) の事。日葡辞書「冰 (コヲリ) couori」(c=k)。沖縄語辞典 (681)「冰 kuuri」(uu=u:←o:あるいはouo)。対音字「科」は ko, uo 二音節に相当しなく、単音節の ko: と読むべきである。

12. 電 波得那 [puo te na] ↔ [po de: na]

琉球語大辞典 (112)「フディー 音を伴はない稲光」。オキナワ語小辞典 (66)「電

フで一)。沖縄語辞典 (214) 「hudii ⊖ 稲光。いなずま。」(hu=Φu ii=i:)。対音字から見ると、未だ po de: と読むはずである (po→Φo→Φu または po→pu→Φu、de:→di:)。

「那」は「na」で未明。驚嘆を表す終助詞かもしれない。

### 13. 霞 个嗑尼 [ko k'a ni] ↔ [ko ga ni]

おもろさうし「黄金 こがね」。おもろ鑑賞 (第67回) は「黄金花の咲きよれば (一五九)」の「あかるいのこかねあなこかねはなのさき」について下のように解釈した。

「あな」(穴)とは地中にあるニライカナイからの出口であって、「てだがあな」(太陽の穴)と称した。ニライカナイは精霊のみなぎっている聖地でもあるから、美称辞を冠して「こがねあな」(黄金穴)ともいった。朝焼けの黄金色をイメージさせてくれる表現となっている。朝日の出る光景を「あけもどろのはな」(明け斑ろの花)と表現している。曙光が東の空を焦がしはじめ、やがて海面を朱に染めて水平線上に浮上し、燦然と輝きはじめるあの南国の太陽この情景に畏怖を感じ、感嘆しながら「こがねはな」(黄金花)ともいっている。

中本先生は「こがねあな」の「こがね」が美称辞と主張された。若しこの「こがね」は「てだがあな」の「てだ」(太陽)と意味相近すれば「琉球館訳語」の「霞」(朝焼け)と読み方が合う。

「个嗑尼」は朝焼けの色を指す可能性も有る。

「个嗑尼」は「こかね」(ko ga ne)の訳音で、「尼」はni (ni←ne)と読む。

### 14. 霜 失莫 [ʃɫ muo] ↔ [ʃi mo]

おもろさうし「霜 しも」。語音翻訳 (77) 「霜 shimu」(sh=ʃ mu←mo)。沖縄語辞典 (700) 「霜 simu」(s=ʃ、mu←mo)。

### 15. 今日 交哇 [kiaua] ↔ [kio: ua]

日葡辞書「今日 (キョウ) qiô」(q=k ô=o:)。語音翻訳 (83) 「今日 kyô」(yô=io:)。沖縄語辞典 (669) 「今日 cuu」(c=ʃ←k uu=u:←o:)。

哇は「ua」と読み、係助詞である。語音翻訳 (59) 「wa」は「主格を表す」とある。

### 16. 起風 嗑集福禄姑 [k'a tsi fu ku] ↔ [ka dʒi Φu ku]

嗑集(風)は第4と同じである。

おもろさうし「吹く ふく」。琉歌全集 (355) 「吹く fuku」(f=Φ)。沖縄語辞典

(774) 「吹く hucuN」 (h=Φ、c=tf←k、uN 動詞終止形)。

「禄」(lu) は第19、20「福禄」の影響で窠入した衍字と思う。

**17. 天陰 甸尼奴姑木的** [tiɛn ni nu ku mu ti] ↔ [ten ni nu ku mu ti]

甸尼(天)は第1と同じである。

語音翻訳 (76) 「天陰了 tIn kumutI」。沖縄語辞典 (675) 「曇る kumujuN」(juN、終止形)。

「奴」は係助詞の「の」(nu) である。語音翻訳 (73) 「面紅 tsũra nu akæsa」は「顔が赤い」の意味で nu (の) は「が」<sup>3</sup>と相当する。

**18. 天晴 甸尼奴法立的** [tiɛn ni nu fa ri ti] ↔ [ten ni nu Φa ri ti]

甸尼(天)、奴(の)は第17と同じである。

語音翻訳 (76) 「晴 fariti」(f=Φ)。琉球戯曲集 (147) 「晴れて fariti」(f=Φ)。

**19. 下雨 嗑乜福禄** [k'a mie fu lu] ↔ [ʔa me Φu ru]

他本に「嗑」の前「失莫」という衍字がある。嗑乜(雨)、第7と同じである。

おもろさうし「降る ふる」。日葡辞書・琉歌全集 (356) 「降る furu」(f=Φ)。

**20. 下雪 由乞福禄** [iəu k'i fu lu] ↔ [iu ki Φu ru]

他本に「由」の前「失莫」という衍字がある。

由乞(雪)と福禄(降る)はそれぞれ第7、20と同じである。

**21. 明日 阿者** [a tʂɛ] ↔ [a tʂia]

おもろさうし「明日 あちゃ」。語音翻訳 (84)・琉歌全集 (309)・琉球戯曲集 (32) 「明日 acha」(cha=tʂia)。沖縄語辞典 (618) 「明日 ʔaca」(ʔa←a、ca=tʂia)。

**22. 昨日 乞奴** [k'i nu] ↔ [ki nu(:)]

日葡辞書「昨日 (キノウ) qinô」(q=k、ô=o:)。琉歌全集 (325)・琉球戯曲集 (308) 「昨日 chinu」(ch=tʂ)。沖縄語辞典 (667) 「昨日 cinnu」(c=tʂ、-n は添音)。

**23. 風雹 嗑集科立** [k'a tsi k'uo li] ↔ [ka dʒi kɔ: ri]

嗑集(風)、科立(雹)はそれぞれ第4、11と同じである。

## 24. 露 禿有 [t'u iəu] ↔ [tu iu]

おもろさうし「露 つゆ」。琉歌全集 (343)・琉球戯曲集 (29)「露 tsiyu」(i←u)。  
 沖縄語辞典 (735)「露 çiju」(çi=tsi←tsu←tu)。対音字「禿」から見ると、第一音  
 節古音 t 未だ保留している。

## 二、地 理 門

## 25. 地 只尼 [tɕɿ ni] ↔ [dɕi ni]

おもろさうし「地 ぢ」。語音翻訳 (86)「地 dji」(dj=dɕ)。琉歌全集 (341)・琉  
 球戯曲集 (76)「地 ji」(j=dɕ)。沖縄語辞典 (728)「地 zii」(zii=dɕi:。  
 「尼」は ni で格助辞「に」の発音と思う。

## 26. 土 足只 [tsu tɕɿ] ↔ [tsu tɕi]

原本「足」は「是」に間違えた。他本によって訂正した。陳侃『使琉球録』・蕭崇  
 業「使琉球録」、『日本館訳語』にもすべて「土 足只」とある。

おもろさうし「土 つち」。日葡辞書「土 tɕuchi」(tɕ=ts, ch=tɕ)。沖縄語辞典  
 (145)「戊(土のえ) çicinii」、çici (çi=tsi←tsu, c=tɕ) は土の発音である。

## 27. 江 密乃度 [mi nai tu] ↔ [mi na tu]

他本に「密」は「蜜(mi)」とある。

対音字によると、「江」(川)の発音ではなく、「港」を記音している。おもろさう  
 し「港 みなと」。琉歌全集 (361)・琉球戯曲集 (282)「港 minatu」。沖縄語辞典  
 (792)「港 'Nnatu」('N←mi)。

## 28. 河 嗑哇 [k'a ua] ↔ [ka ua]

おもろさうし「川 かわ」。琉球戯曲集 (76)「川 kaua」。浦添・小湾方言辞典  
 (74)「川蟹 ka:gani」。ka: は川(かわ)の発音で、第二音節の ua が a に変化し、  
 第一音節の長母音になった。

## 29. 海 烏乚 [u mie] ↔ [u mi]

台湾本「乚」は誤字「七」とある。

おもろさうし「海 うみ」。琉歌全集 (315)・琉球戯曲集 (146)・沖縄語辞典  
 (636)「海 umi」。

第二音節の i 音は ie に対音され、i よりやや広いの I であると思う。

30. 山 亞馬奴 [ia ma nu] ↔ [ia ma nu]

おもろさうし「山 やま」。日葡辞書・琉歌全集 (365)・琉球戯曲集 (53)「山 yama」。沖縄語辞典 (803)「山 jama」(j=i)。

「奴」(nu) は格助辞「の」である。沖縄語辞典 (756)「の (助詞) -nu」。琉球方言辞典 (400)「の (格助詞連体格) nu」。

31. 水 民足 [min tsu] ↔ [min dzu]

おもろさうし「水 みず」。琉歌全集 (361)・琉球戯曲集 (171)「水 mizi」(zi=dzi←dzū←dzu)。沖縄語辞典 (790)「水 mizi」(zi=dzi←dzū←dzu)。対音の「足」から見ると、母音は未だ「u」になっている。子音も硬口蓋歯茎破裂摩擦音 dʒ ではなく、歯間破裂摩擦音 dz である。

第二音節濁子音 dz の影響で第一音節の音尾に添音 -n が有る。

32. 氷 姑亦立 [ku li] ↔ [ku: ri]

第11「雹 科立」と音義同じであるが、既に ko: はku: に変化した。

「亦」(i) は u: と r の間の過渡音である。

33. 路 密集 [mi tsi] ↔ [mi tʃi]

他本に「密」は「蜜」(mi) とある。

おもろさうし「道 みち」。琉歌全集 (361)・琉球戯曲集 (37)「道 michi」(ch=ʃ)。沖縄語辞典 (791)「道 mici」(c=ʃ)。

34. 石 亦石 [i ʃi] ↔ [i ʃi]

おもろさうし「石 いし」。琉歌全集 (311)・琉球戯曲集 (30)「石 ishi」(sh=ʃ)。沖縄語辞典 (627)「石 ?isi」(?i←i, si=ʃi)。

35. 井 亦嗑哇 [i k'a ua] ↔ [i ga ua]

原本と他本「哇」は「喇」(ra) であった。哇喇の字形近く、『日本館訳語』によって訂正した。

おもろさうし「井戸 かわ」。琉球戯曲集 (130)・沖縄語辞典 (630)「井戸 kawa」。日葡辞書「井側 igaua」によると、i がある。

36. 牆 那別 [na piɛ] ↔ [ka be]

牆、壁のこと。日葡辞書「壁 cabe」(c=k)。琉歌全集 (323)・沖縄語辞典 (659)



「壁 kubi」(u←a, i←e)。「那」(na) は ka の子音合わなく、八重山・奄美などの方言にぎ、げが ni または n になる現象がある（中本正智先生『琉球方言音韻の研究』p393に参照）が、ka が na になる音変あるかどうか未だ問題に残る。第49の第三音節も同じく那（na）と ka 対応する。

### 37. 城 邊 [ʒau] ↔ [giau]

日葡辞書「城（ジャウ） Iō」(Iō←giau)。高橋俊三教授『おもろさうしの国語学的研究』第二章「音韻詳論」（43）「しかし、正しい表記の例が多いし、au が o: に音韻変化する現象が生じていないので、完全には変化していなかったであろう。」おもろさうしの表記は『琉球館訳語』の音訳と一致する。

### 38. 泥 个乚禄 [ko mie lu] ↔ [ko n(m)e ru]

泥、動詞、泥で塗る。日葡辞書「捏ねる coneru」(c=k)。「乚」が「ね (ne)」と対音するのは琉球語な行音のま行音への変化する現象を反映した。おもろさうしに「な」は「みや」に、「あまにこ」は「あまみきよ」にの音変例が有る（『おもろさうしの国語学的研究』p62に参照）。奄美の与論島・沖永良部島・奄美大島に「ニの子音が m になる」例も多い（中本正智先生『琉球方言音韻の研究』p397に参照）。その中に「[jimi]（死ぬ）」という例は「乚 (mie)」ne 対音とほぼ同じ。

### 39. 沙 是那 [ʃɿ na] ↔ [ʃi na]

日葡辞書「砂 suna」。沖縄語辞典（712）「砂 ʃina」(ʃi=si←su)。琉球方言辞典（287）「砂 ʃina」(ʃi←si)。

### 40. 灰 活个立 [huo ko li] ↔ [Φo ko ri]

日葡辞書「埃 focori」(f=Φ c=k)。沖縄語辞典（218）「埃 hukui」(hu=Φ u i←ri)。浦添・小湾方言辞典（244）「埃 Φukui」。

### 41. 橋 扒只 [pa tʂɿ] ↔ [pa ʃi]

おもろさうし「橋 はし」。沖縄語辞典（760）「橋 hasi」(ha←Φ a←pa si=ʃi)。対音字「扒」から見ると、古音 p 未だ保留している。

### 42. 磚 亞及亦石 [ia ki i tʂɿ] ↔ [ia ki i ʃi]

広辞苑「焼石 やきいし」(ia ki i ʃi)。

## 43. 瓦 嗑哇喇 [k'a ua la] ↔ [ka ua ra]

日葡辞書「瓦 cauara」(c=k)。沖縄語辞典(662)「互 kaara」(二つめの a←ua)。

## 44. 岸 倭嗑 [uo k'a] ↔ [uo ka]

岸、川の反対、陸地。おもろさうし「陸 おか」。日葡辞書「陸 voca」(v=u、c=k)。

## 45. 嶺 密乜 [mi mie] ↔ [mi n(m)e]

おもろさうし「嶺 みね」。日葡辞書「嶺 mine」。第38と同じに、「乜」は「ね」の変化音 me (め) と対応する。

## 46. 遠 它加撒 [t'o sa] ↔ [to: sa]

おもろさうし「遠さ とうさ」。日葡辞書「遠さ touosa」。沖縄語辞典(740)「遠い tuusaN」(二番めの u←uo tu←to aN=?aN 形容詞終止形。

対音字「加」(ka) は次の「近 集加撒」の影響で窜入した衍字と思う。「日本館訳語」も「遠 它撒」。

## 47. 近 集加撒 [tsi kia sa] ↔ [tʃi ka sa]

おもろさうし「近さ ちかさ」。琉歌全集(341)「近い chikasa」(ch=tʃ)。

## 48. 長 那嗑失 [na k'a ʃɪ] ↔ [na ga ʃi]

日葡辞書「長い nagai」。形容詞古代終止形はし(ʃi)である。

## 49. 短 密失那失 [mi ʃɪ na ʃɪ] ↔ [mi ʒi ka ʃi]

日葡辞書「短い mijicai」(j=ʒ、c=k)、古終止形はし(ʃi)である。

那(na)はkaと対応し、第36第一音節と同じである。

## 50. 前 馬也 [ma ie] ↔ [ma ie]

原本と他本に「也」は「乜」とあり、台湾本の旁註によって訂正した。

日葡辞書「前 maye」(y=i)。沖縄語辞典(785)「前 mee」(mee=me:←mai←maye)。

## 51. 後 烏失禄 [u ʃɪ lu] ↔ [u ʃi ru]

日葡辞書「後 vxiro」( $v=u$   $x=f$ )。琉歌全集 (314)・琉球戯曲集 (84)「後 ushiru」( $sh=f$   $ru\leftarrow ro$ )。

52. 左 分達里 [fuen ta li]  $\longleftrightarrow$  [ $\Phi$ win da ri]

日葡辞書「左 fidari」( $f=\Phi$ )。沖縄語辞典 (768)「左 hwizai」( $h=\Phi$   $za=d\text{ʒ}ia\leftarrow da$   $i\leftarrow ri$ )。

第二音節濁子音 d- の影響で、第一音節の音尾に添音 -n がある。

53. 右 民及立 [min ki li]  $\longleftrightarrow$  [min gi ri]

沖縄語辞典 (790)「右 niziri」( $ni\leftarrow mi$   $z=d\text{ʒ}\leftarrow g$ )。図説琉球語辞典 (213)「右 ミジリ midziri」( $d\text{ʒ}i\leftarrow gi$ )。オキナワ語小辞典 (86)「右 ミギリ」( $ギ=gi$ )。

54. 上 烏也 [u ie]  $\longleftrightarrow$  [u ie]

原本と他本に「也」は「乜」とあって形近誤字として訂正した。稲葉本に「烏」は「鳥」(誤字)とある。

日葡辞書「上 vye」(uie)。沖縄語辞典「上  $\text{?wii}$ 」( $\text{?w}\leftarrow u$   $ii\leftarrow ie$ )。

55. 下 世莫 [ʃɫ muo]  $\longleftrightarrow$  [ʃi mo]

他本に「世」が「失」(ʃi)とある。

おもろさうし辞典「下 しも」。沖縄語辞典 (700)「下 simu」( $si=ʃi$ ,  $mu\leftarrow mo$ )。

56. 東 加尼 [kia hi]  $\longleftrightarrow$  [ $\text{?a: r(n)i}$ ]

沖縄語辞典 (766)「東  $\text{?agari}$ 」。図説琉球語辞典 (201)「東  $\text{?a:ri}$ 」( $:=a\leftarrow ga$ 、語中の g が脱落する)。対音字「尼」から見ると、r が  $\text{?n}$  になる可能性もある (『琉球方言音韻の研究』p401に参照)。

57. 西 尼失 [ni ʃɫ]  $\longleftrightarrow$  [ni ʃi]

おもろさうし「西 にし」。図説琉球語辞典 (203)・琉球方言辞典 (395)「西 niʃi」。

58. 南 米南米 [mi nan mi]  $\longleftrightarrow$  [mi nam mi]

日葡辞書・琉球戯曲集 (103)「南 minami」。第三音節子音 m- の影響で第二音節が添音 -m がある。

## 59. 北 乞大 [k'i ta] ↔ [ki ta]

おもろさうし「北 きた」。日葡辞書「北 qita」(q=k)。図説琉球語辞典 (207)  
「北 kita」。

## 60. 路近 密集奴集加撒 [mi tsi nu tsi kia sa] ↔ [mi tʃi nu tʃi ka sa]

阿波国本「密」は「蜜」(mi) とある。

密集 (道)・奴 (の)・集加撒 (近さ) はそれぞれ第33・17・47と同じである。

## 61. 路遠 密集奴它加撒 [mi tsi nu to sa] ↔ [mi tʃi nu to: sa]

阿波国本「密」は「蜜」(mi) とある。

密集 (道)・奴 (の)・它加撒 (遠さ) はそれぞれ第33・17・48と同じである。

## 62. 山水 亞馬奴民足 [ia ma nu min tsu] ↔ [ia ma nu min dzu]

亞馬 (山)・奴 (の)・民足 (水) はそれぞれ第30・31と同じである。

## 63. 水路 民足密集 [min tsu mi tsi] ↔ [min dzu mi tʃi]

阿波国本・稲葉本「密」は「蜜」(mi) とある。

民足 (水)・密集 (道) はそれぞれ第31・33と同じである。

## 三、時 令 門

## 65. 春 法禄 [fa lu] ↔ [Φa ru]

おもろさうし「春 はる」。日葡辞書・語音翻訳 (82)「春 faru」(f=Φ)。沖縄  
語辞典 (765)「春 haru」(h←Φ)。

## 66. 夏 那都 [na tu] ↔ [na tu]

おもろさうし「夏 なつ」。語音翻訳 (82)「夏 natsū」。沖縄語辞典 (748)「夏  
naçi」(çi=tsi←tsu←tu)。対音字「都」から見ると第二音節子音は「t」を保留して  
いる。

## 67. 秋 阿及 [a ki] ↔ [a ki]

語音翻訳 (82)「秋 aki」。沖縄語辞典 (617)「秋 ?aci」(?a←a c=ʃ←k)。

## 68. 冬 福由 [fu iəu] ↔ [Φu iu]

原本と他本全て「冬 由福」とあって、日本館訳語「冬 福由」によって訂正した。

おもろさうし「冬 ふゆ」。語音翻訳 (83)・日葡辞書・琉歌全集 (357)・琉球戯曲集 (166)「冬 fuyu」( $f=\Phi$ )。沖縄語辞典 (778)「冬 huju」( $hu=\Phi u$ )。

69. 冷 必亞撒 [pi ia sa]  $\longleftrightarrow$  [pi ia sa]

日葡辞書「冷さ fiyasa」( $f=\Phi$ )。対音字「必」から見ると  $\Phi$  が未だ p と読む。

70. 熱 嗑子撒 [k'a tsɿ sa]  $\longleftrightarrow$  [ʔa tsu sa]

日葡辞書「熱さ atçu sa」( $tç=ts$ )。沖縄語辞典 (620)「熱い ʔaçisaN」( $ʔa\leftarrow a$  çí←tsu←tsu、aN 形容詞終止形)。対音字「子」の母音 ɿ (前舌非円唇狭母音) は u (奥舌非円唇狭母音) に最も近い。

71. 寒 必角禄撒 [pi kio lu sa]  $\longleftrightarrow$  [pi kio ru sa]

琉歌全集 (343)「冷い fijurusa」( $f=\Phi$  ju=dʒiu)。沖縄語辞典 (735)「冷い hwizurusaN」( $h=\Phi$ 、zu=dʒiu、aN 形容詞終止形)。「角」の発音から見ると dʒiu は gio から giu を経て変化してきた音だと考えられる。第一音節の子音は  $\Phi$  でなく、p と読むはずである。

72. 暑 奴禄撒 [nu lu sa]  $\longleftrightarrow$  [nu ru sa]

日葡辞書「温さ nurusa」。沖縄語辞典 (754)「ぬるい nurusaN」(aN、形容詞終止形)。

73. 陰 枯木的 [ku mu ti]  $\longleftrightarrow$  [ku mu ti]

第17枯木的 (陰) と同じである。

74. 陽 法立的 [fa ri ti]  $\longleftrightarrow$  [ $\Phi$ a ri ti]

陽、陰の反対、太陽ある、晴れる。第18法立的 (晴) と同じである。

75. 昼 必禄 [pi lu]  $\longleftrightarrow$  [pi ru]

第2 と同じである。

76. 夜 由禄 [iəu lu]  $\longleftrightarrow$  [iu ru]

おもろさうし「夜 よる」。語音翻訳 (81)・琉歌全集 (367)・琉球戯曲集 (95)「夜 yuru」。沖縄語辞典 (808)「夜 'juru」( $'j=y$ )。

77. 早 速多 [su tuo] ↔ [su to]

語音翻訳 (80) 「清早 stomiti」。沖縄語辞典 (618) 「朝 sutumiti」(tu←to)、又 (498) 「『つとめて』に対応する。sutimiti ともいう」。「速多」は前の二音節に対音し、miti の対音はしていない。

78. 暁 約姑立的 [io ku li ti] ↔ [io ku ri ti]

約姑立的は「夜昏れて」の音記。

日葡辞書 (806) 「夜 yo」。沖縄語辞典 (806) 「夜 'juu」('juu=iu:←io)。琉歌全集 (327) 「夕暮 kuriti」。琉球戯曲集 (53) 「暮れて kuriti」。

79. 時 吐及 [t'u ki] ↔ [tu ki]

おもろさうし「時 とき」。琉歌全集 (345)・琉球戯曲集 (55) 「時 tuchi」(ch=tj←k)。沖縄語辞典 (741) 「時 tuci」(c=tj←k)。

80. 気 亦及 [i ki] ↔ [i ki]

おもろさうし「息 いき」。日葡辞書「息 iqi」(q=k)。沖縄語辞典 (626) 「息 ?iici」(?ii=?i:←i、c=tj←k)。

81. 年 多失 [tuo ʂi] ↔ [to ʂi]

おもろさうし「年 とし」。沖縄語辞典 (742) 「年 tusi」(tu←to、si=ʂi)。

82. 節 些姑尼集 [si ku ni tsi] ↔ [seʔ ku ni tʃi]

広辞苑「節句、節供 せっく」(seʔ ku)、「日 にち」(ni tʃi)。沖縄語辞典 (715) 「節供 siqku」(siq=ʃiʔ←seʔ)、(752) 「日 nici」(ci=tʃi)。

83. 今年 个多失 [ko tuo ʂi] ↔ [ko to ʂi]

おもろさうし「今年 ことし」。沖縄語辞典 (684) 「今年 kutusi」(ku←ko tu←to si=ʂi)。

84. 明年 苗年 [miao nien] ↔ [miao nen]

日葡辞書「明年 miōnen (ミャウネン)」(miō←miao)。au の発音は第37に参照する。

85. 今日 交哇 [kiau ua] ↔ [kio: ua]

第15と同じである。

86. 明日 阿者 [a tʂɛ] ↔ [a tʂia]

第21と同じである。

87. 昨日 乞奴 [k'i nu] ↔ [ki nu:]

第22と同じである。

88. 早起 速多密的 [su to mi ti] ↔ [su to mi ti]

阿波国本、稲葉本「密」は「蜜」(mi) とある。

第77の解説文に参考する。

89. 正月 燒哇的 [ʂau ua ti] ↔ [ʂiau gua t]

日葡辞書「正月 xōguat」(xō=ʂio:←ʂiau, t は tu の弱化音)。沖縄語辞典 (703)

「正月 sjoogwaçi」(sjoo=ʂio:←ʂiau, çi=tsi←tsu←tu)。

90. 二月 寧哇的 [niŋ ua ti] ↔ [niŋ gua t]

日葡辞書「二月 niguat」、第二音節濁子音 g-の影響で、第一音節の音尾に添音 -ŋ  
がある。沖縄語辞典 (751)「二月 niNgwaçi」(N=ŋ, çi=tsi←tsu←tu)。

91. 三月 散哇的 [san ua ti] ↔ [san gua t]

原本と他本に「散」は「撒」(sa) とあって、日本館語訳「三月 散哇的」によっ  
て訂正した。

日葡辞書「三月 sanguat」。沖縄語辞典 (693)「三月 saNgwaçi」(çi=tsi←tsu←  
tu)。

92. 四月 升哇的 [ʂəŋ ua ti] ↔ [ʂiŋ gua t]

日葡辞書「四月 xiguat」(x=ʂ)。琉球方言辞典 (407)「四月 ʂiggwatʂi」、沖縄  
語辞典 (695)「四月 siNgwaçi」(siN=ʂiŋ çi=tʂi←tsi←tsu←tu)。

93. 五月 惡哇的 [o ua ti] ↔ [go gua t]

日葡辞書「五月 goguat」。沖縄語辞典 (681)「五月 gugwaçi」(gu←go çi=tsi  
←tsu←tu)。

94. 六月 禄姑哇的 [lu ku ua ti] ↔ [ru ku gua t]

沖縄語辞典 (813) 「六月 rukugwaçi」 (çi=tsi←tsu←tu)。

95. 七月 是止哇的 [ɬl tɬl ua ti] ↔ [ʃi tʃi gua t]

日葡辞書「七月 xichiguat」(x=ʃ、ch=tʃ)。沖縄語辞典 (697) 「七月 sicigwaçi」(si=ʃi ci=tʃi çi=tsi←tsu←tu)。

96. 八月 法只哇的 [fa tɬl ua ti] ↔ [Φa tʃi gua t]

日葡辞書「八月 fachiguachi」(f=Φ ch=tʃ、末音節 chi=tʃi←tsi←tsu←tu)。沖縄語辞典 (761) 「八月 hacigwaçi」(h←Φ、c=tʃ çi=tsi←tsu←tu)。

97. 九月 姑哇的 [ku ua ti] ↔ [ku gua t]

沖縄語辞典 (672) 「九月 kugwaçi」(çi=tsi←tsu←tu)。

98. 十月 柔哇的 [zəu ua ti] ↔ [ɰiu: gua t]

日葡辞書「十月 jūguat (ジュウグワツ)」(jū=ɰiu:←ɰiou)。沖縄語辞典 (701) 「十月 zuugwaçi」(zuu=ɰ(dɰ)iu: çi=tsi←tsu←tu)。

99. 十一月 失木多及 [ɬl mu tuo ki] ↔ [ʃi mu tu ki]

他本に「多」は「都」(tu)とあって、琉球音と合う。

日葡辞書「霜月 ximotçuqi」(x=ʃ tçu=tsu←tu、q=k)。沖縄語辞典 (701) 「霜月 simuçici」(si=ʃi、mu←mo tsi←tsu←tu ci=tʃi=ki)。

100. 十二月 失哇思 [ɬl ua sɿ] ↔ [ʃi ua su]

日葡辞書「師走 xiuasu」(x=ʃ)。沖縄語辞典 (708) 「師走 siwaasi」(si=ʃi waa=ua←ua、si=ʃi←si←su←su)。「思」の母音にあうのは u と i の中間変化音 u である。

101. 閏月 烏奴烏多及 [u nu u to ki] ↔ [u ru: du ki]

他本に「多」は「都」(tu)とあって、琉球音と合う。以下の102～104も同じようである。稲葉本に語頭の「烏」は「鳥」にし、誤字である。以下の102～104も同じに間違っている。

日葡辞書「閏 vrū (ウルウ)」(uru:)。沖縄語辞典 (637) 「閏月 ?uruzici」(?u←u、ru←ru:、zi=dzi←du←du、ci=tʃi←ki)。対音字「多、都」から見ると、d の発



音が未だしている。又「奴」から見ると、r が n になる可能性もある。以下の102～104も同様である。

102. 今年閏月 个多失烏奴烏多及 [ko tuo ʂɿ u ru u tuo ki]  $\longleftrightarrow$  [ko to ʃi u ru: du ki]

个多失（今年）、烏奴烏多及（閏月）はそれぞれ第83、101と同じである。

103. 今年閏三月 个多失烏奴烏多及散哇的 [ko tuo ʂɿ u nu u tuo ki san ua ti]  $\longleftrightarrow$  [ko to ʃi u ru: du ki san gua t]

个多失（今年）、烏奴烏多及（閏月）、散哇的（三月）はそれぞれ第84・101・98と同じである。

104. 明年閏十月 苗年烏奴烏多及柔哇的 [miau nien u nu u tuo ki zəu ua ti]  $\longleftrightarrow$  [miau nen u ru: du ki ʒiu: gua t]

苗年（明年）・烏奴烏多及（閏月）・柔哇的（十月）はそれぞれ第84・101・98と同じである。

#### 四、花 木 門

105. 茶 扎 [tʂa]  $\longleftrightarrow$  [tʃia]

稲葉本に「扎」は「札」(tʃia) で、台湾本に「茶」は「茶」とある。

語音翻訳 (102) 「茶 ch'a」(tʃ'ia)。日葡辞書・琉歌全集 (341)・琉球戯曲集 (102) 「茶 cha」(cha=tʃia)。沖縄語辞典 (729) 「茶 caa」(caa=tʃia:←tʃia)。

106. 花 法那 [fa na]  $\longleftrightarrow$  [Φa na]

おもろさうし「花 はな」。語音翻訳 (119)・日葡辞書「花 fana」(f=Φ)。沖縄語辞典 (762) 「花 hana」(h=Φ)。

107. 米 姑米 [ku mi]  $\longleftrightarrow$  [ku mi]

おもろさうし「米 こめ」。琉歌全集 (330)・琉球戯曲集 (202)・沖縄語辞典 (686) 「米 kumi」(ku←ko、mi←me)。

108. 樹 那及 [na ki]  $\longleftrightarrow$  [na i ki]

広辞苑「生木 なりき」(na ri ki)。琉歌全集 (348) 「果樹 na i ki」(i←ri)。沖縄語辞典 (405) 「実、果実 nai」。琉球館語訳は第二音節 i を音記していない。

## 109. 果 烏乚 [u miɛ] ↔ [u me]

阿波国本・稲葉本に「果」は「菓」とある。

果、中国語に果樹の実の意味。ここは特に梅を指すのを考えられる。日葡辞書「梅 vme」。沖縄語辞典 (636) 「梅 ?Nmi」(?N←u, mi←me)。

## 110. 松 馬足 [ma tsu] ↔ [ma tsu]

おもろさうし「松 まつ」。日葡辞書「松 matçu」(tç=ts)。沖縄語辞典 (787) 「松 maaçi」(aa=a:←a çi=tsi←tsu)。

## 111. 柏 馬足那及 [ma tsu no ki] ↔ [ma tsu no ki]

柏、本来はコノテ柏の意で、ここは「松の木」になっている。日葡辞書「松の木 ma tçu no qi」(tç=ts q=k)。

## 112. 梅 烏乚 [u mi] ↔ [u me]

第109と同じである。

## 113. 箏 達及 [ta ki] ↔ [ta ki]

箏、竹の子で、ここは「竹」で音記している。おもろさうし「竹 たけ」。琉球戯曲集 (310)・琉歌全集 (339) 「竹 taki」(ki←ke)。沖縄語辞典 (723) 「竹 daki」(da←ta, i←e)。

## 114. 竹 達及 [ta ki] ↔ [ta ki]

第113と同じである。

## 115. 草 姑撒 [ku sa] ↔ [ku sa]

おもろさうし「草 くさ」。琉歌全集 (337)・琉球戯曲集 (38)・沖縄語辞典 (672) 「草 kusa」。

## 116. 藁 那多乚 [na tuo miɛ] ↔ [na tu me]

他本に「多」が「都」(tu)とあり、琉球音と合う。

日葡辞書「藁 natçume」。対音字「多」から見ると第二音節子音はまだtを保留している。

## 117. 菜 菜 [ts'ai] ↔ [sai]

日葡辞書「菜 sai」。沖縄語辞典 (688) 「菜 ʃee」(ʃee=se:←sai)。

118. 瓜 烏立 [u li] ↔ [u ri]

日葡辞書「瓜 vri」。沖縄語辞典 (637) 「瓜 ʔui」(ʔu←u i←ri)。

119. 葉 尼 [ni] ↔ [ni]

「尼」は「葉」の発音ではなく、「根」の音記である。琉歌全集 (349) 「根 ni」(ni←ne)。沖縄語辞典 (754) 「根 nii」(ii=i:←e)。

120. 香 稿 [kau] ↔ [kau]

台湾本に「稿」は「稿」とある。

日葡辞書「香 (カウ) cō」(cō=kɔ:←kau)。沖縄語辞典 (716) 「線香 koo」(oo=o:←au)。

121. 蓮蓬 花孫奴殻 [hua sun nu ko] ↔ [ha sun nu ko]

「蓮の子」と音記している。琉歌全集 (351) 「蓮 hasi」(h=Φ si←su)。奴、属格助辞「の」、nu と読む。日葡辞書「子 co」(c=k)。

第三音節 n- の影響で、第二音節の音尾に添音 -n が有る。

122. 蓮子 花孫奴米 [hua sun nu mi] ↔ [ha sun nu mi]

「花孫奴」(蓮の) は第121と同じである。琉歌全集 (360) 「実 mi」。沖縄語辞典 (789) 「実 mii」(ii=i:←i)。

123. 蓮花 花孫奴法那 [hua sun nu fa na] ↔ [ha pun nu Φa na]

花孫奴 (蓮の)、法那 (花) はそれぞれ第122・103と同じである。

124. 龍眼 隆眼 [liuŋ ian] ↔ [riu:ŋ gan]

広辞苑「龍眼 りゅうがん」(riu: gan)。第二音節 g- の影響で、第一音節音尾に添音 -ŋ がある。

125. 荔枝 立是 [li ʃl] ↔ [ri: ʃi]

台湾本に「是」は間違って「足」とある。

広辞苑「荔枝 れいし」(re: ʃi)。沖縄語辞典 (812) 「荔枝 riici」(rii=ri:←rei ci=tʃi, 「tʃi」の発音は中国語の「枝」(tʃi) そのまま取り入れたものと考えられる)。

## 126. 甘蔗 翁及 [uŋ ki] ↔ [u:ŋ gi]

日葡辞書「荻 vogui」(uo gi)。沖縄語辞典 (692) 「砂糖黍 uuzi」(uu=u: zi=dzi←gi)。第二音節濁子音 g- の影響で第一音節の音尾に添音 -ŋ がある。

## 127. 胡椒 姑焼ku ɣau] ↔ [ku fjo:]

台湾本・阿波国本に「胡」は「糊」とある。

日葡辞書「胡椒 coxô」(c=k xô=fjo:)。語音翻訳 (101) 「胡椒 k'u shu」(shu=fju←fjo:←fiou)。

## 128. 木香 南木稿 [nan mu kau] ↔ [nan mu? kau]

(学研) 漢和大事典「楠 なん」(nan)。日葡辞書「木香 moccô」(moc=mo?, cō=k:←kau)。沖縄語辞典 (389) 「木綿」の木は「mu」(←mo) と読む。

## 129. 蘇木 思哇 [sɿ ua] ↔ [su uau]

日葡辞書「蘇芳 (スワウ) suuô」(uô=uɔ:←uau)。

## 130. 連香 申自密稿 [ɕən tsɿ mi kau] ↔ [ʃin dzumi kau]

阿波国本・稲葉本に「密」が「蜜」(mi) とある。

連香は音記によると即ち沈 (しづむ) 香である。日葡辞書「沈み xizzumi」(x=ʃ zzu=dzu)。沖縄語辞典 (696) 「沈む siʒinuN」(si=ʃi ʒi←dzi←dzu←dzu nu←mu uN、動詞終止形)。第二音節の濁子音 dz- の影響で第一音節の音尾に添音 -n がある。稿 (香) は第124と同じである。

## 131. 丁香 朝失 [tɕau ɕɿ] ↔ [tɕiau ʒi]

原本に「朝」は誤字「胡」とあって、他本によって訂正した。

日葡辞書「丁子 (チャウジ) chôji」(chô=tɕio:←tɕiau, j=ʒ)。

## 132. 沈香 定稿 [tiŋ kau] ↔ [din kau]

日葡辞書「沈香 (ジンカウ) gincô」(gi=dʒin←din cō=kɔ:←kau)。対音字「定」から見ると第一音節子音はまだ古音 d となっている。

## 133. 檀香 別姑旦稿 [piɛ ku tan kau] ↔ [bia ku dan kau]

原本「稿」の所に「結」とあって、他本によって訂正した。

日葡辞書「白檀 biacudan」(c=k)。琉球戯曲集 (202) 「柏檀 byakudan」。稿

(香) は第120と同じである。

**134. 乳香** 由稿 [iəu kau] ↔ [niu: kau]

「乳」の音読は niu: で「由」の発音 iəu と対応することによれば、子音 n- が合わない。稿 (香) は第120と同じである。

**135. 血蝎** 槽奴結 [tsau nu kie] ↔ [dzau nu keʔ]

他本に蝎、奴は結、那 (na) とある。

「槽奴結」は「象の血」の音記である。日葡辞書「象 zō (dzo:←dzau)。語音翻訳 (122) 「象 dzô = dzo:←dzau)。奴 (nu)、属格助詞「の」である。日葡辞書 (490) 「血流」、「血液」などの「血」は qet (keʔ) と発音する。

**136. 孩兒茶** 烏定尼 [u tig ni] ↔ [u tin ni]

他本に「孩」は「孩」とある。

孩兒茶はまた阿仙葉・黒兒茶・烏參泥・烏丁尼・烏壘泥とも呼ぶ。東インド・マレー半島・インドネシア諸島に産する植物からとった褐色・暗褐色塊状の薬材で収斂剤・止血薬・染料などに用いる。この言葉は現代に使われていない。烏定尼は音訳詞の烏參泥 (u tie ni) ・烏丁尼 [u tig ni] ・烏壘泥 (u lui ni) の発音とほぼ同じあるいは近い。琉球王国時代、琉球はおそらく「烏定尼」(う でイン に) と発音した。「烏參泥」の音訳から見ると、「烏定尼」の第二音節の音尾は後ろの n- の影響で添音 -n が有るはずである。

**137. 奇南香** 加那木稿 [kia na mu kau] ↔ [kia ra mu kau]

原本には「那」が「奴」とあって、他本によって訂正した。

奇南香は伽羅のこと、沈香の中で香が特に優れたもの。奇南は奇楠、迦南とも書く。国語大辞典「伽羅 きゃら」(kia ra)。第二音節の子音 r は n と対応し、琉球に kiana と読む可能性も有る (『琉球方言音韻の研究』p401 「r が n になる」に参照)。

木稿 (木香) は第128と同じである。

<謝辞>

本稿の作成にあたり、比嘉実所長から貴重なご意見を戴いた。ここに記して感謝の意を表したい。